

2016年1月29日

日興レジェンド・イーグル・ファンド (資産成長コース) / (円ヘッジコース) / (毎月決算コース) の運用状況について

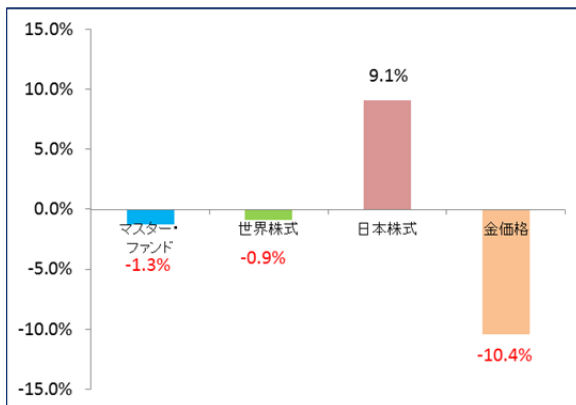
アムンディ・ジャパン株式会社

2016年、世界の金融市場は波乱の幕開けとなりました。当ファンドが主要投資対象とする「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」(以下、マスター・ファンド)を運用するファースト・イーグル・インベストメント・マネジメント社(以下、ファースト・イーグル社)より運用状況と今後の運用方針の見解についてご報告いたします。

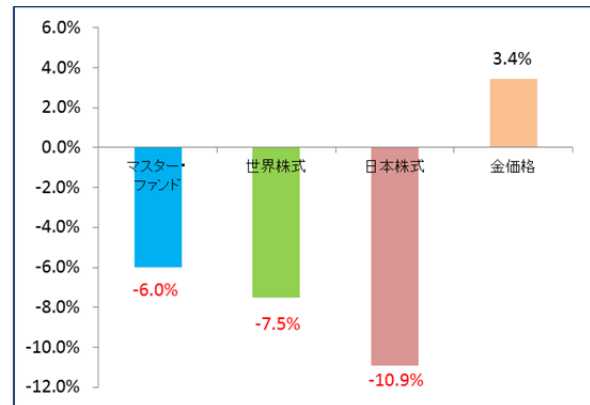
レポートサマリー

- 資本財、コモディティ関連など大幅に下落したセクターの銘柄に注目
 - 投資妙味のある銘柄が増え、追加投資を行ったため現金比率は低下中
 - 2015年のパフォーマンスは振るわなかったものの、金※は引き続き有効なヘッジ手段
 - 地政学的リスクや中国経済の動向など不透明要素が数多く存在するなか、ファースト・イーグル社の保守的な投資アプローチが強みを発揮すると期待
- ※「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」では金現物ではなく、金ETF、金関連株式に投資しています。

2015年の年間騰落率



2016年の年初来騰落率



2015年のマスター・ファンド*のパフォーマンスは一般的な株式市場インデックスを下回ったものの、2016年初の市場の混乱の中で本来の運用の強みが生かされ、相対的にパフォーマンスは上回っています。

*マスター・ファンドは、日興レジェンド・イーグル・ファンドの主要投資対象であるファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドを指します。

※世界株式はMSCIワールド指数(米ドルベース)、日本株式は日経平均株価、金価格は金現物価格(1トロイオンス当たり)。2016年の年初来騰落率は2016年1月22日時点のデータです。MSCIワールド指数とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

出所：ブルームバーグのデータを基にアムンディ・ジャパン株式会社作成

1. 足元の投資環境 ～2016年は大揺れのスタート～

2016年の世界株式市場は弱気相場で始まり、1月22日時点でMSCIワールド指数は7.5%下落しています。一方、日興レジェンド・イーグル・ファンドの主要投資対象であるファースト・イーグル・グローバル・バリュエーション・マスター・ファンドは同期間で6.0%の下落にとどまりました(それぞれ米ドルベース)。

年初来の市場の混乱は、中国株の顕著な下落と通貨元の突然の切り下げに端を発したものと思われます。中国に関して我々はこれまでも、大規模な設備投資と急激な信用拡大を行った結果、中国市場が調整局面に差し掛かっていると指摘してきました。

またグローバルに見ても、信用取引による株式投資残高の積み上がりと各国中央銀行による金融緩和の影響により、株式などリスク資産のバリュエーションが相対的に高くなっていると指摘してきました。

リスク資産は、新興国の景気減速、高まる地政学的緊張、中央銀行の財務状況の悪化によるリスクがあるにもかかわらず、高いバリュエーションが維持されています。ただし、エネルギー、コモディティ、資本財など大きく下落したセクターの株式については、様々なリスクが株価水準に織り込まれてきたと見ています。

一方で、原油価格の下落は世界経済にとって最大のプラス材料であると考えています。原油安は経済活動を刺激し、消費者の可処分所得や貯蓄を高めるだけでなく、地政学的リスクの源となる地域・国の資金繰りが困難になることで地政学的リスクが低下するといった効果もあります。

2. 株式市場の見通し ～割高な株式市場で見つける投資のチャンス～

昨年株式市場動向を振り返ると、多くの個別銘柄の動きは限定的である一方で、少数の割高な銘柄が良好なパフォーマンスをあげ、全体の市場インデックスを引き上げたとしています。現在の株式市場は広範囲にわたってバリュエーションが割高であり、株価は下落したものの市場全体を見た場合の投資妙味は、過去の下落局面と比較するとやや劣ると考えています。

現在の投資環境は全般的に高水準の負債、信用取引残高の積み上がり、高い政治リスクを抱えており、リスク資産の価格はそれに照らし合わせて考えると割高であるとしています。投資家の中には株式が過去の平均と比べて割安であると捉える人もいるかもしれませんが、我々はそうは考えていません。

株価のバリュエーションは割高で世界の経済成長が横ばいという現在の投資環境の中で、我々は方向性が二極化していると感じています。例えば、多くの製造業とコモディティ関連ビジネスが調整局面を迎える一方、サービス産業とインターネット関連ビジネスは順調に成長しています。また、多くの新興国は景気が減速しつつある一方で、先進国は成長に転じつつあり、実際に欧州は改善に向かっています。

ビジネスに対する逆風を鑑みた上でも、ポートフォリオで保有している資本財およびコモディティセクターで企業の本源的価値に対し株価が割安になった銘柄が出て来ています。これらの銘柄に資金を投入した結果、過去1年間で現金比率は低下しました。

3. 金の魅力 ～依然として有効なヘッジ手段～

金の需給環境を見てみると、新たな金鉱脈やそれに伴う新規プロジェクトもなく、現存する金鉱の採掘可能な埋蔵量は徐々に低下しており、供給は絞られています。すなわち、中央銀行が発行することができる紙幣と異なり、金の希少性は依然として保たれています。

今後、企業業績の回復が思ったように進まず金融政策の正常化が先延ばしになった場合には、利回りが低く人為的に作り出されたにすぎない紙幣よりも実物資産である金の方がヘッジ手段としての魅力度がさらに増すと考えています。

4. 結びに ～ファースト イーグル社からのメッセージ～

一年前と比べて投資機会は増えており、ポートフォリオにおける現金比率が低下しているのはその結果と言えます。ただし、急速に株式の組入比率を引き上げることについては引き続き慎重でありたいと考えています。

我々はいかなる市場環境にも対応できる、いわゆる「全天候型」の運用を心掛けています。そのため強気相場においては慎重に過ぎると思われるかもしれませんが、弱気相場においてはその強みが発揮されると考えています。

特定の期間だけを見れば、我々は決して最もパフォーマンスが良い運用者には見えないかもしれませんが、しかし、我々の保守的な投資アプローチは現在のような市場環境において特に有効であると考えています。引き続き本源的価値よりも割安な企業に投資することで、混乱したシナリオの中でも抵抗力のあるポートフォリオの構築に努めてまいります。

※当レポートは、ファースト イーグル社より提供された情報を基にアムンディ・ジャパン株式会社が翻訳・編集をおこなったものです。



『モーニングスターアワード ファンド オブ ザ イヤー2014』優秀ファンド賞受賞(国際株式型部門)
日興レジェンド・イーグル・ファンド(資産成長コース)

Morningstar Award “Fund of the Year 2014”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2014年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際株式型部門は、2014年12月末において当該部門に属するファンド1,034本の中から選考されました。

ファンドの目的

ファンドは、投資信託証券への投資を通じて中長期的な投資信託財産の成長をはかることを目標として運用を行います。

ファンドの特色

- 30年を超える長いトラックレコードと優れた運用実績がある「ファースト・イーグル・グローバル・ファンド」と同じ運用手法の「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド(以下、マスター・ファンド)」へ、主に投資します。
 - 主としてケイマン籍の外国投資信託「マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資します(以下両ファンドを総称してまたは個別に「サブファンド」という場合があります。また受益証券および投資証券を総称して、以下「投資信託証券」といいます。)。世界の株式等への実質的な投資は「マスター・ファンド」を通じて行います。
 - 「マスター・ファンド」の運用は、米国の運用会社ファースト イーグル インベストメント マネジメント社(以下「ファースト イーグル社」といいます。))のグローバル・バリュー・チームが行います^{※1}。また、「Amundi Funds キャッシュ・USD」の運用はアムンディ アセットマネジメント^{※2}が行います。
 - ※1 「ファースト・イーグル・グローバル・ファンド」は、運用資産残高の急増により2005年3月より新規申込みの受け付けを中止していましたが、2008年1月から新規申込みの受け付けを再開いたしました。
 - ※2 2015年11月12日付で、「アムンディ」から名称変更しました。
- 主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、ドルベース^{※3}で相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで投資信託財産の長期的な成長を目指します。
 - 世界各国(エマージング地域にも投資することがあります。))の株式を対象として、ボトムアップ方式により個別銘柄の調査を行い、PBR等の伝統的なバリュエーション分析のほか、フリーキャッシュフロー等、様々な分析を加え、財務内容を徹底的に分析します。
 - 分析の結果、十分に割安で魅力的であると判断した銘柄でポートフォリオを構築します。
 - ファンドは、特定の株価指数にとらわれない運用を行うため、ベンチマークを設定していません。
 - 「マスター・ファンド」において、ドルベースでのパフォーマンスを向上させるために、ドル以外の他通貨売り/ドル買いの為替取引(ドルベースでの為替ヘッジ)を行うことがあります。
 - ※3 当資料では、「ドル」とは米ドルのことを指します。
- 「資産成長コース」、「円ヘッジコース」、「毎月決算コース」それぞれの間で無手数料でスイッチングが可能です。
 - スイッチングの際には、換金時と同様に税金がかかりますのでご注意ください。

◆資金動向、市況動向等の急変により上記の運用が困難となった場合、上記と異なる運用を行う場合があります。◆

投資リスク

各ファンドは、投資対象サブファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクがあります。))に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではありません。**ファンドの基準価額の下落により、**損失を被り投資元本を割り込むことがあります。**ファンドの運用による損失はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因としては、価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等が挙げられます。なお、基準価額の変動要因(投資リスク)は、これらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、ファンドの繰上償還等があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

<お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。>

当資料のお取り扱いについてのご注意

■当資料は、法定目論見書の補足資料としてアムンディ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、法令等に基づく開示資料ではありません。■当ファンドの購入のお申込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、お受取りの上、内容は投資信託説明書(交付目論見書)で必ずご確認ください。なお、投資に関する最終決定は、ご自身でご判断ください。■当資料は、弊社が信頼する情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性について弊社が保証するものではありません。また、記載されている内容は、予告なしに変更される場合があります。■当資料に記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。■投資信託は、元本および分配金が保証されている商品ではありません。■投資信託は値動きのある証券等に投資します。組入れた証券等の値下がり、それらの発行者の信用状況の悪化等の影響による基準価額の下落により損失を被ることがあります。したがって、これら運用により投資信託に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属いたします。■投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。■投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

収益分配金に関する留意事項

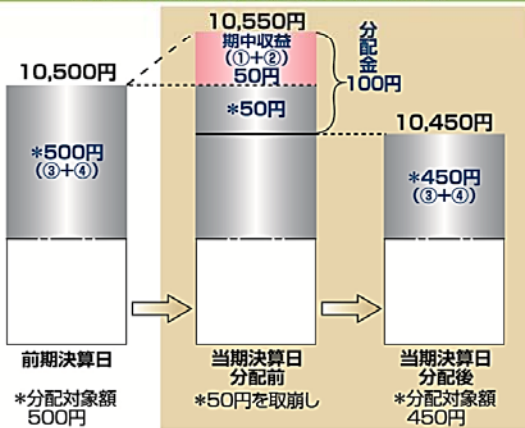
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



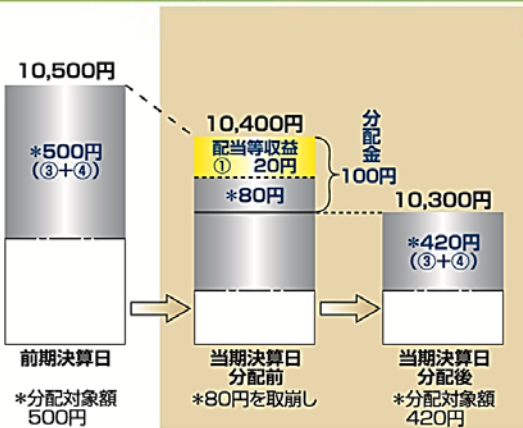
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

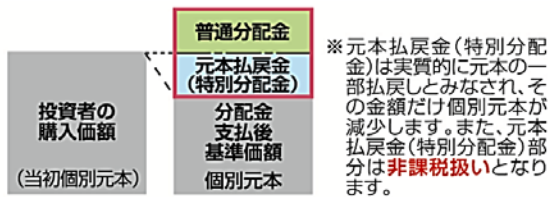


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

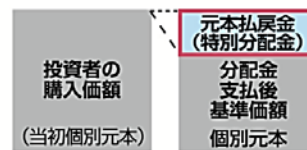
※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

お申込みメモ

	資産成長コース	円ヘッジコース	毎月決算コース
購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。		
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。		
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。		
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、6営業日目からお支払いします。		
購入換金申込受付不可日	ニューヨークもしくはケイマンの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休場日の場合はスイッチングを含め、受け付けません。		
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。		
換金制限	換金の申込総額が多額な場合、投資信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、諸事情により金融商品市場等が閉鎖された場合等一定の場合に換金の制限がかかる場合があります。		
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品市場における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受け付けた購入・換金の申込受付を取消することができます。		
信託期間	原則として、無期限とします。 (設定日:平成21年9月11日)	原則として、無期限とします。 (設定日:平成23年3月18日)	
決算日	年2回決算、原則毎年6月、12月の各5日*です。 *当該日が日本の休業日の場合は翌営業日とします。		年12回決算、原則毎月5日*です。
収益分配	原則として年2回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。 「分配金再投資コース」は税引後無手数料で再投資されます。		原則として年12回の決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。		
スイッチング	資産成長コース、円ヘッジコースおよび毎月決算コースそれぞれの間で無手数料でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、換金時と同様に税金がかかりますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問合せください。		

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が独自に定める料率を乗じて得た金額とします。有価証券届出書作成日現在の料率上限は 3.78% (税抜3.5%) です。
信託財産留保額	ありません。

投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	各コースの純資産総額に対し 年率1.2096% (税抜1.120%) をそれぞれ乗じて得た金額とします。各コースが投資する外国籍(ケイマン籍およびルクセンブルク籍)ファンドの有価証券届出書作成日現在の運用報酬の上限額は、各外国籍ファンドの運用資産の純資産総額に対し、それぞれ年率0.8%および0.1%を乗じて得た金額となります。したがって、当該運用報酬を考慮した場合の 各コースの実質的な負担の上限は、年率2.0096% (=1.2096% + 0.8%) となります。ただし、「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」の運用報酬の最低金額は25万ドルとなっているため、純資産総額によっては年率2.0096%を上回る場合があります。実際の信託報酬の合計額はサブファンドの組入状況、運用状況によって変動します。
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。 ・有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用 ・信託事務の処理等に要する諸費用(監査費用、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用等を含みます。) ・投資信託財産に関する租税等 ※その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。

◆ファンドの費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

委託会社、その他の関係法人	委託会社: アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第350号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 受託会社: 野村信託銀行株式会社 販売会社: 販売会社については巻末をご参照ください。
ファンドに関する照会先	アムンディ・ジャパン株式会社 お客様サポートライン 0120-202-900(フリーダイヤル) 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス: http://www.amundi.co.jp

販売会社一覧(業態別・五十音順)

金融商品取引業者等		登録番号	加入協会				
			日本証券業協会	一般社団法人 投資信託協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○		○	○	○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○			○	○